



LOGOS どこでもソフト湯たんぽ・レクタ

No.81661002



ご使用上の注意 ※ ご使用前によくお読み下さい ※

「LOGOSどこでもソフト湯たんぽ・レクタ」は、断熱性・保温性の高い「ウエットスーツ素材」でできています。

- LOGOSどこでもソフト湯たんぽ・レクタは、準備・接着・縫製等、すべての工程が手作りで作られている製品です。1品1品丁寧に作っておりますが、万一不都合等がございましたら、製造元にご連絡下さい。ご購入日から1年以内の場合、無償で修理対応をさせていただきます。1年を経過致しましては、有償になりますが、修理を承ります。
- 素材は、クロロプレンゴムという、断熱性・保温性・耐熱性が非常に高い特殊なゴム素材です。生地の中にスポンジ状に無数に含まれている独立気泡の効果で、熱が直に伝わらないので、プラスチック製・金属製の湯たんぽとは異なり、カバーなしでそのままお使い頂けます。低温やけどはしにくい素材ですが、同じ部位での長時間のご使用をされる場合、お肌の弱い方は、短時間で一度試してからご使用下さい。

安全にお使い頂くために特に気をつけて頂きたい主な注意点

- 注意！ 平らなところに湯たんぽを置くか箱などに入れ、安定した状態でお湯を入れて下さい。
- 注意！ 耐熱温度は100℃です。熱湯を注いでも、製品に問題はございませんが、安全のため沸騰したお湯は、70～80℃に少し冷ましてから入れることをお勧めします。また必ず専用の「ネジ付きロー」を使用してお湯を入れ、手や体にお湯がかからないようにご注意ください。
- 注意！ キャップは、特に意識して、きゅっ!と固く確実に閉めて下さい。締めがゆるいと、キャップが緩み、布団などを濡らす恐れがあります。しっかり閉まって漏れない事を充分にご確認の上、ご使用下さい。
- 注意！ キャップ部分を持って持ち運びをしないで下さい。特に、お湯を入れた状態でキャップ部分を持つと、重さで注ぎ口がはがれやすくなり、不良の原因になります。
- 注意！ 付属品の紛失の際は、単体で別売をしておりますので、製造元/0978-67-2251にご連絡下さい。

お手入れ・保管方法・お取扱いに関する注意点

- 注意！ 検品のため、湯たんぽの中が濡れている場合がありますが、ご使用には差し支えございません。
- 注意！ 汚れは、水または薄めた洗剤水で手洗いして下さい。洗濯機では洗わないで下さい。
- 注意！ 使い始めは少しクロロプレンゴム特有のゴム臭がありますが、使って頂くうちに徐々にやわらいでいきます。万一かゆみやかぶれの症状が出た場合や、匂いに敏感な方は、ご使用をお控え下さい。何度が洗剤をつけて手洗いして頂くと、ゴムのにおいが早く消えます。
- 注意！ 湯たんぽを投げたり、高所から落としたり、折り曲げたりしないで下さい。
- 注意！ 鋭利なものや突起物などで、湯たんぽを刺したり、傷つけたりしないで下さい。
- 注意！ 火のそばに置いたり、直接火にかけたり、電子レンジ等で温めたりしないで下さい。また直射日光や風の当たる場所に放置しないで下さい。
- 注意！ 使用後のお湯は、飲まないで下さい。
- 注意！ 保管の際は、フタを開け、本体を振るなどして中の水分を極力飛ばしきり、しばらくフタを開けたままにして放置し、なるべく乾かした後、直射日光が当たらない場所で保管して下さい。またその際、折り曲げて放置しないで下さい。折り傷の原因になります。中は完全には乾きにくいですが、カビなどは発生しにくいです。次回お使い頂く時に、熱いお湯を一度入れてからお使い頂くと熱湯消毒になります。
- 注意！ 時間の経過と共に多少ゴムが劣化して縮むことがあります。劣化の具合は、使用頻度やお住まいの地域の水質などにより異なります。
- 注意！ 子供が使用する際は、保護者の目の届くところで使用して下さい。
- 注意！ 凍らせた氷を入れて使用しないで下さい。
- 注意！ 枕としては使用しないで下さい。
- 注意！ 処分する場合は、市町村の区分に従って下さい。

低温やけどに関する注意事項

低温やけどのメカニズム

● 低温やけどは、心地よく感じる程度(体温より少し暖かい温度)のものでも、皮膚の同じ部分が長い時間接触していると発生するやけどです。

- 皮膚の温度と低温やけどになるまでの目安時間 →

<input type="checkbox"/> 皮膚温44℃の場合	→	約3～4時間
<input type="checkbox"/> 皮膚温46℃の場合	→	約30分～1時間
<input type="checkbox"/> 皮膚温50℃の場合	→	約2～3分

低温やけどを防ぐ方法

- 布団の中から出して使用する。布団が温まったら、ゆたんぽを布団から取り出して就寝すると、低温やけどの危険性がありません。このような使い方をお勧めします。
- 一定時間ごとにゆたんぽの位置を変える。保護者や介護者など周囲の方がいる場合は身体と同じ部位に触れ続けないよう、時々ゆたんぽの位置をかえてあげてください。
- 湯の温度を下げる。必ずしも低温やけどの防止には効果がありませんが、入れる湯の温度を下げることで、表面温度が下がるため、低温やけどを生じるまでの時間は長くなります。
- 低温やけどは皮膚の深いところまで達することがあります。万が一、低温やけど(皮膚の変色や痛み)が起きたときには、すぐに専門医の診断をうけてください。